

日本と海外の英語教育

宮城県仙台第三高等学校 普通科

要旨

わたしたちは英語の教育に関する調査を行った。なぜなら韓国は日本と同じような地理的条件と英語を第一言語としないという状況にある国であるにも関わらず英語能力に大きなギャップがあるからだ。わたしたちがある韓国の高校と仙台三高に行ったアンケートでは韓国の生徒の半分以上の生徒が授業の難易度について本校の生徒よりも簡単だと感じている割合が高かった。その理由の一つとして韓国の子どもは英語に触れ始める年齢が日本よりもはやいという事が考えられる。株式会社 ISA に行ったインタビューでは、英語を理解したり話したりする能力だけでなくディスカッションの能力も必要であるということがわかった

1 はじめに

仙台三高では一年生の生徒が台湾の高校生と交流するというイベントがある。そのイベントでは主に英語で意思疎通を図ることになるが、台湾の人たちは不自由なく会話できているように見えるのに対し、わたしたちは言葉に詰まる場面が多く、悔しさを味わった。そこで何がこのような英語力の違いを生んでいるのかを調べ始めた。

2 研究方法

論文の調査やアンケート、企業へのインタビューを行い、英語の学び方をどのように改善するべきなのか調べる。

3 研究内容

最初に日本の教育に課題があると仮説を立てた。そしてどの国と日本を比較するか考えたところ同じ東アジアの国であり、英語を第一言語とせず、日本との英語能力の差が明らかである韓国に決めた。英語能力の比較は EF 英語能力指数(1)を参考にした。韓国は 113 カ国中 49 位、日本は 87 位。

はじめに韓国のチョンリヨル高校と仙台三高の生徒にアンケートを実施した。



図 1

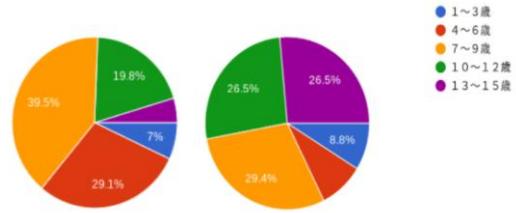


図 2

学校の授業の難易度について(図 1)や何歳頃から英語に触れ始めたのか(図 2)などいくつかの質問をした。図 1 より多くの韓国の生徒は授業の難易度をちょうどよいと感じている一方、三高では難しいと感じている生徒が多い。また、図 2 より 1~9 歳のときから英語学習を始めたという生徒の割合は、韓国では約 75%、三高では 50% 未満であることがわかった。

次に日本の学生の海外留学をサポートしている株式会社 ISA にインタビューを行った。英語力

を伸ばすには、失敗を恐れずアウトプットすることや、英語はコミュニケーションツールの一つだと捉え、ディスカッション能力も忘れず鍛えること、国際交流の中で、自身の国の歴史や文化について深く説明できないなど、コミュニケーションでの失敗を経験することが大切だと教えていただいた。

3 考察

アンケート調査の結果から、韓国の英語力の優位性は英語学習を始める時期が日本の子どもよりも早い傾向にあることが理由の一つであると考えた。また、事前調査で、日本とは異なり韓国の大学入試にはスピーキングテストがあることが判明しており(2)、スピーキング力向上に対する意欲に差があることが英語力の差につながっていると考えた。これらのことから、英語力向上のために、

- ・英語の基礎をより深く学習すること
 - ・自身の考えを発信する能力を鍛えること
 - ・ALT なども活用しながらディスカッションを授業に積極的に取り入れること
- を提案する。

参考文献

- (1) EF EPI 英語能力指數
<https://www.efjapan.co.jp/epi/>
- (2) 大学入試を変えればすべてが変わる
<https://toyokeizai.net/articles/-/11919?display=b>

abstract

We have been searching for Japanese English education. There is a big gap between Japan and Korea. Even though Korea is one of the countries which have similar giology points to Japan. In our study, more than half Korean high school students feel English class is easy, because almost all of them have started learning English since they were small. In an interview with ISA, a staff member told us only English skills but also discussion skills are also necessary.